

6回連続講演

山崎弁栄「人生の帰趣」を読む。

講師 若松英輔 (批評家)

第2回日時 平成29年12月17日(日) 17時～19時

第3回日時 平成30年2月12日(月) 17時～19時

会場 ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

岐阜県岐阜市司町40番地5 TEL 058-265-4101

参加費 2,000円 学生および未成年者無料 (予約制、定員100名)

主催者 山崎弁栄記念館、久松真一記念館

※お申し込み先 長良川画廊 TEL 058-263-4322

日本において、明治以降今日に至るまで、山崎弁栄ほど、
霊あるいは霊性という術語を積極的かつ多様に用い、霊の
形而上学と呼ぶべき構造をもって語り得た人物はいない。
彼が歴史のなかに眠っていること自体が、日本では霊性史
の探究が緒についたばかりであることを物語っています。

(『霊性の哲学』若松英輔)

ここでいう「霊」とは、幽霊を見た、靈魂を見たというような
心霊現象とは全く関係がありません。あるいは、「死者」を神霊
や英霊に置き換えることでもありません。「霊」とは、人間存
在の根源をなす不可視な実在(『霊性の哲学』)です。

「日本的霊性」として「霊性」の意味を強く自覚し、個々にお
ける霊性の目覚めが本当の意味での「宗教」の始まりであると
主張した鈴木大拙をはじめ、柳宗悦、井筒俊彦、吉満義彦、内村
鑑三ら、近代の優れた「霊」の思索者たちの論究も視野に入れ
ながら 山崎弁栄の「霊性」を読み解きます。

若松英輔

批評家・随筆家

1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。

2007年「越知保夫とその時代―求道の文学」にて
第14回三田文学新人賞評論部門当選。

2016年「叡知の詩学―小林秀雄と井筒俊彦」にて
第2回西脇順三郎学術賞を受賞。

著書に『井筒俊彦 叡知の哲学』、『神秘の夜の旅』、
『岡倉天心「茶の本」を読む』、『悲しみの秘義』、『イ
エス伝』他多数。